

公益財団法人
ケア・インターナショナル ジャパン

2016年度 (2015年7月～2016年6月)
年次報告書



変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に

支援者の皆様へ

ご挨拶

昨年12月より五月女前理事長の後を受けて理事長に就任いたしました目賀田周一郎です。私は、長く外務省に勤め、開発途上国支援の仕事にも携わって参りましたが、この伝統ある公益財団の使命を達成すべく、そのような経験を活かし努力して参りたいと存じますので、どうぞよろしくご支援お願い申し上げます。

国際社会は、拡散するテロ事件、不透明な経済情勢等懸念される状況もありますが、そのような中で、貧困に苦しむ女性や女子たちを支援する必要はますます高まっているように思えます。国連で採択されたアジェンダ2030でも、女性のエンパワメントとジェンダーの平等は、持続的な開発を促進する上で欠かせないものと位置付けられており、女性や女子の自立を支援することがそれぞれの地域や社会の安定にも貢献し、将来へ向けての希望につながるものと確信しております。

また、もう一つの活動の柱である紛争や災害発生に際しての緊急支援にも積極的に取り組みたいと考えております。このために緊急時に直ちに拠出できるための「緊急支援基金」の拡充も課題となっております。緊急の災害等に際してはご協力よろしくお願いたします。

2016年度は、開発事業としては、外務省からの助成金を得て、2件の新規事業が立ち上がりました。また、緊急・復興支援事業としては、シリア難民支援事業に加え、国内においても熊本地震に際し、被災者支援に立ち上がったケア・サポーターズクラブ熊本と連携して、緊急募金を行い協力させていただきました。

当財団は、個人会員、法人会員など様々な形でのご支援をいただいておりますが、加えて、全国各地の7つのCARE支援組織にファンドレイジングにご協力いただいていることは他には例のない体制であります。岡山、東京、大分に続き、本年は、ケア・サポーターズクラブ熊本が創立10周年を迎え、長年にわたるご支援に改めて厚く御礼申し上げます。

世界95カ国で6,500万人を超える人々を支援しているケア・インターナショナルのグローバルなネットワークの強みを活かし、国内においては個人、法人、地域の重層的な支援体制の下に一層の基盤強化を図り、貧困をなくし公正な社会を目指す国際的な連帯の一端を担って引き続き取り組んで参ります。

引き続き皆様の一層のご理解とご支援を改めてお願いする次第です。



理事長 目賀田周一郎

年度総括

2016年度は、「中期戦略計画2017」の2年次となりました。基本戦略の多くは成果を収めていますが、民間資金の拡大は十分な結果を残すことができませんでした。

国際協力事業は、計7件の支援事業（緊急復興支援3件、開発支援事業4件）を実施しました。そして実施国は、5カ国（ガーナ、東ティモール、ネパール、ヨルダン等、日本）となりました。

啓発普及事業は、本年度も2大キャンペーン（つながる国際協力「CAREスマイルギフトキャンペーン」と歩く国際協力「Walk in Her Shoes」）を実施し、体験と体感の機会を提供することにより、新規を含め、多くの皆様にご参加をいただきました。

決算は、厳しい状況となりました。法人会員を拡大することができましたが、大口寄付の獲得、寄付付き商品の開拓、個人寄付の拡大に苦戦し、さらに大幅な円高による為替差損により、収支赤字となりました。寄付収入を構造的に改善し、均衡を目指していかなければなりません。

一方、今日の国際情勢を考慮し、国レベル、地域レベル、国際レベルでのコンサルテーションを経て、ケア・インターナショナルにおける「ビジョン」と「ミッション」の改定、そして女性と女子を活動の中心にする「フォーカス」が、6月の国際理事会において採択された重要な節目の年となりました。2017年度が始まる2016年7月から世界中のCAREがこの改定されたビジョンとミッション、そして新たに加わったフォーカスを謳い、その世界感の実現に向けて、突き進んで行くこととなります。

さらにCAREでは、2020年までにあるべき組織像を描いたビジョン「CARE2020」に基づき、具体的な成果目標を掲げるようになりました。人道支援、母子保健、食糧安全と気候変動、経済的なりソースの4分野において、世界中で合計1億5千万人をサポートできるよう、グローバルな力を結集して取り組んで参ります。

このように、世界的な目標を達成するには、日本の事務所もこれまで以上に多くの支援者を募り、量的質的な貢献を増やしていかなければなりません。誰でも「支援をしてみたい」という気持ちを持っているはずですが、その気持ちを実現する機会を提供することができるように、同時に、よりすそ野の広い協力が得られるように、これからも創意工夫を続けます。引き続き、皆様からのご協力をどうぞお願いいたします。



常務理事・事務局長 武田勝彦

CONTENTS

- 02 ご挨拶と年度総括
- 03 THE CARE WORLD（世界地図で見る事業地）
2016年度 事業報告
- 08 数字で見る
CARE（ケア・インターナショナル）の1年
- 09 数字で見る
ケア・インターナショナル ジャパン国内活動の1年
- 10 CARE 支援組織 活動報告
- 11 CARE 支援の輪
- 12 2016年度 会計報告
- 15 役員・評議員・顧問、法人会員、支援組織

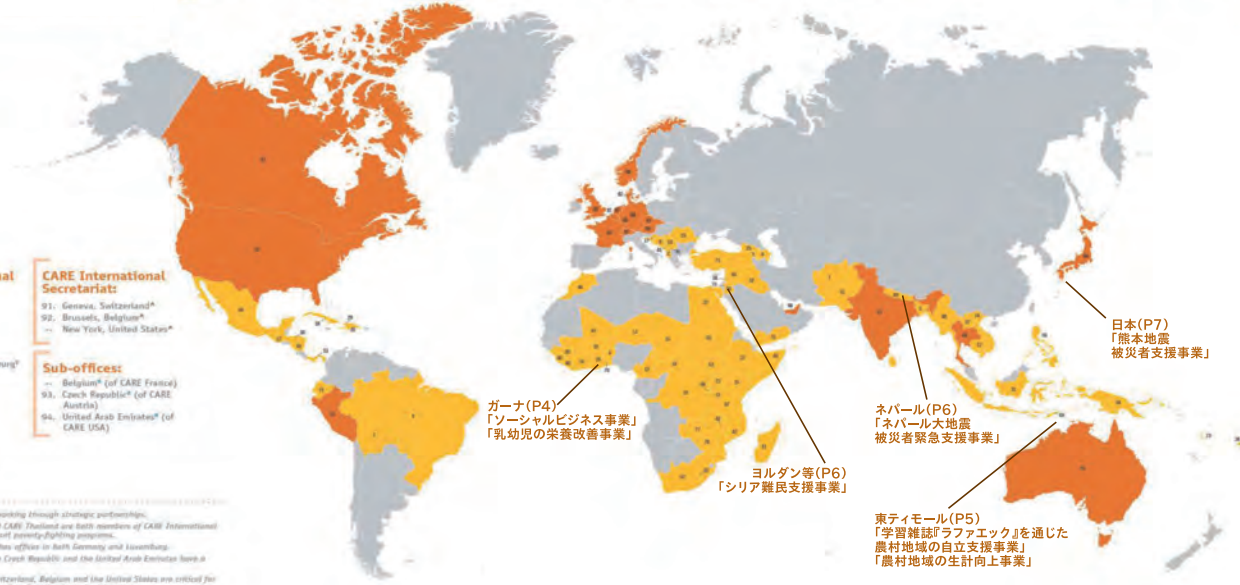
THE CARE WORLD 2016

Care International Country Presence for FY16

- | | | | | | | |
|---------------------------|--------------------------------------|---------------|-----------------|----------------------|------------------|---------------|
| 1. Afghanistan | 12. Cambodia | 23. Ethiopia | 35. Kenya | 47. Mozambique | 59. Serbia | 71. Turkey |
| 2. Albania* | 13. Cameroon | 24. Fiji* | 36. Kosovo | 48. Myanmar | 60. Sierra Leone | 72. Uganda |
| 3. Armenia* | 14. Central African Republic* | 25. Georgia | 37. Laos | 49. Nepal | 61. Somalia | 73. Vanuatu |
| 4. Azerbaijan* | 15. Chad | 26. Ghana | 38. Lebanon | 50. Nicaragua | 62. South Africa | 74. Vietnam |
| 5. Bangladesh | 16. Côte d'Ivoire | 27. Guatemala | 39. Lesotho | 51. Niger | 63. South Sudan | 75. West Bank |
| 6. Benin | 17. Croatia* | 28. Guinea* | 40. Liberia* | 52. Pakistan | 64. Sri Lanka | 76. Gaza |
| 7. Bolivia | 18. Cuba | 29. Haiti | 41. Madagascar | 53. Panama | 65. Sudan | 77. Yemen |
| 8. Bosnia and Herzegovina | 19. Democratic Republic of the Congo | 30. Honduras | 42. Malawi | 54. Papua New Guinea | 66. Syria | 78. Zimbabwe |
| 9. Brazil | 20. Dominican Republic | 31. India* | 43. Mali | 55. Peru* | 67. Tanzania | |
| 10. Burkina Faso* | 21. Ecuador | 32. Indonesia | 44. Mexico* | 56. Philippines | 68. Thailand* | |
| 11. Burundi | 22. Egypt | 33. Iraq* | 45. Montenegro* | 57. Romania* | 69. Timor-Leste | |
| | | 34. Jordan | 46. Morocco | 58. Rwanda | 70. Togo* | |

- CARE International Members:**
- 79. Australia
 - 80. Austria
 - 81. Canada
 - 82. Denmark
 - 83. France
 - 84, 85. Germany-Luxembourg*
 - India*
 - 86. Japan
 - 87. Netherlands
 - 88. Norway
 - Peru*
 - Thailand*
 - 89. United Kingdom
 - 90. United States
- CARE International Secretariat:**
- 91. Geneva, Switzerland*
 - 92. Brussels, Belgium*
 - New York, United States*
- Sub-offices:**
- Belgium* (of CARE France)
 - 93. Czech Republic* (of CARE Austria)
 - 94. United Arab Emirates* (of CARE USA)

* Limited CARE presence or working through strategic partnerships.
 * CARE India, CARE Peru and CARE Thailand are both members of CARE International and countries with significant asset-lighting programs.
 * CARE Germany-Luxembourg has offices in both Germany and Luxembourg.
 * Sub-offices in Belgium, the Czech Republic and the United Arab Emirates have a focus on Fundraising.
 * CARE Secretariat offices in Switzerland, Belgium and the United States are critical for CARE's efficiency, as well as for other important functions.



開発支援事業

- ガーナ 「ソーシャルビジネス事業」 継続事業 P4
- ガーナ 「乳幼児の栄養改善事業」 新規事業 P4
- 東ティモール 「学習雑誌『ラファエック』を通じた農村地域の自立支援事業」 継続事業 P5
- 東ティモール 「農村地域の生計向上事業」 新規事業 P5

緊急・復興支援事業 (海外)

- ネパール 「ネパール大地震被災者緊急支援事業」 終了事業 P6
- ヨルダン等 「シリア難民支援事業」 新規事業 P6

緊急・復興支援事業 (国内)

- 日本 「熊本地震被災者支援事業」 新規事業 P7

その他の事業

- アドボカシー事業 継続事業 P7

ガーナ「ソーシャルビジネス事業」

— 赤ちゃんの栄養改善を目指して、貧困層の女性たちがセールスレディとして活躍



● 受益者の声

アフィーナ・アブラハム (39歳)さんは、栄養補助サプリメント「KOKO plus」等の利益をもとにシアナッツを買い、儲けが多いシアバターを作り始めました。「これまでシアナッツを計り売りでポール3杯しか買うことができませんでした。でも、今では25杯も買えるようになりました。また、痩せていた息子が見るからに健康になりました。お店を夫に任せて、毎日夕方に家々に売り歩きに行けるようになりました」とうれしそうに話してくれました。(補足：朝と日中は家の人が仕事などで不在。)

1,508回

需要創出イベントの開催回数

13,143名

左記イベントへの延べ参加者数

36,405袋

栄養補助サプリメント
「KOKO plus」の販売数

課題

ガーナでは、経済的な南北格差が生じており、貧しい北部の開発支援が急務となっています。さらに、気候変動の影響により、北部の貧困層は非常に厳しい生活環境におかれ、乳幼児の栄養状況についても、北部ではより深刻な状況となっています。ソーシャルビジネス（本案件では、貧困層に対する栄養補助サプリメント「KOKO plus」販売・普及）を通じて、女性の収入機会の創出とその安定化に加え、母親の栄養知識の向上を促進することにより、6ヶ月以上24ヶ月未満の乳幼児の栄養改善を目指しています。

活動内容

本年度は、1) 栄養補助サプリメントのソーシャル・マーケティング活動、2) コミュニティ・ヘルス・ボランティア、母親ファシリテーター、男性啓発係等の村のボランティアとセールスレディによる栄養啓発のモニタリング、3) 流通ハブ（拠点）の在庫のモニタリング、4) 事業展開の拡大に向けての新たな事業地の選定を実施するとともに、5) 村の関係者等と当該地域での支援終了に向けての出口戦略を立案しました。既に、村の各ボランティアにより自主的に栄養啓発活動が続けられており、子どもの栄養に関する住民の意識が高まっています。また近隣の村にも販路を拡大するセールスレディも増えてきています。今後は、栄養補助サプリメントを供給する日本企業が、流通ハブ（拠点）の在庫のモニタリングを引き継ぐことになります。

ガーナ「乳幼児の栄養改善事業」

— 赤ちゃんの栄養改善を目指して、貧困層の女性たちが起業家として活躍



● 駐在員の声

早水 綾野 (はやみ あやの)
プロジェクト・マネージャー
「I am powerful」というCAREのコピーを聞いたことがありますか？「現地の人々のパワーを信じてサポートする」というそのアイデアは、私が現地に入るときにポリシーそのもの。現地の人々が思いきり頑張れる環境づくりをするのが私の仕事です。実際、パワフルな仕事人とか何かをやり遂げたときの喜びは、一生の宝物。ガーナの人に寄り添い、お互いに切磋琢磨しながら成長し合えるプロジェクトを目指して、頑張ります。

4,370人

対象地域の2歳未満児の数

25,690人

対象地域の子どもの保護者の数

3,000人

対象地域の村内貯蓄貸付組合員の数

課題

活動地の北部州イースト・マンプレーシー郡は、経済成長が著しいガーナにおいては、極度の貧困状態が残る地域です。ガーナの貧困層のおよそ40%の人々が北部で暮らし、とりわけ、北部州の5歳以下の子どもの栄養失調の状況は非常に悪い状況です。その結果、33%が発育阻害（低身長）、20%が低体重、82%が貧血とされており、この地域の貧困と連動しているといわれています。子どもの栄養状態の改善は、将来的な貧困の予防の点からも喫緊の課題となっています。

活動内容

本年2月から開始した本事業は、事業開始から約4ヶ月間を準備期間とし、6月以降の本格始動に向けて、1) 日本人現地統括者の雇用と現地への派遣、2) 現地スタッフ3人の新規雇用と研修、3) 資機材（バイク等）の購入、4) ベースライン調査のためのコンサルタント選定と調査の実施、5) プロジェクトメンバーとパートナー団体を対象としたオリエンテーションの実施、6) 地方政府、パートナー団体との事業開始に向けた理解促進会議の実施などを進めました。今後は、乳幼児の保護者を対象とした栄養啓発活動、村落貯蓄貸付組合（VSLA）の運営研修や女性起業家の育成活動を行うとともに、男性の巻き込みも図ることにより、ジェンダーの平等も推進していきます。

東ティモール「学習雑誌『ラファエック』を通じた農村地域の自立支援事業」

—アジアで一番新しい国の農村部の人たちに生きるチカラを届ける



●担当者の声

CARE東ティモール事務所
シンプリシオ・バーボサ
プロジェクト・マネージャー
CAREは、全ての事業で、男女の平等と女性・女子のエンパワメントを進めており、「ラファエック」も例外ではありません。「ラファエック」では、伝統的に規定された男女の性別による役割に捉われないように、女性、男性、女子、男子を描くようにしています。例えば、雑誌に掲載する話では、家事労働の男女間の平等な分担という考え方を促進したり、教室での男女の平等な扱いの事例を示したり、歴史上、科学上の女性の役割に焦点をあて、多様性の大切さを話に盛り込む等、様々な工夫をしています。

310,745 世帯

成人向け「ラファエック」を受け取った世帯数

438,967人

未就学・低学年児童向け「ラファエック」を受け取った児童数

36,552人

教員向け授業法・指導法「ラファエック」を受け取った小学校教師の数

課題

アジアで一番新しい国である東ティモールは、国民の約4割が1日1.25ドル以下で暮らすアジア最貧国の一つ。貧困層の85%は農村部に暮らしおり、昨今、農村部と都市部との経済・教育格差が顕著となっています。成人識字率は都市部で約80%であるのに対し農村部では約44%と低く、農村部では十分な識字能力や計算能力を身に付けることができず、経済活動や家計の管理にも支障をきたし、親の識字能力の低さが子どもの栄養・健康状態、そして就学率にも悪影響となって現れています。

活動内容

成人向け「ラファエック」については、年4回、全13県で配布するとともに、対象地域で住民参加型の対話ワークショップを開催。日々の生活情報や、子どもの健康や教育、また農業や貯蓄についてなど、雑誌で取り上げた幅広い内容についての理解と実践能力を強化しました。また未就学・低学年児童向け「ラファエック」を、幼稚園児と小学1、2年生を対象に配布するとともに、教員向け授業法・指導法「ラファエック」については、13県の小学校教師に配布しました。本年度は、特に、より円滑な活動実施と住民参加の更なる促進を目指し、「ラファエック」の配布前に、村長等地域のリーダー格の人々への説明を丁寧に行うなど、地域住民の活動への理解と意識付けの強化促進に取り組みました。

東ティモール「農村地域の生計向上事業」

—持続的で多様な生きる手段の構築と女性のエンパワメントを目指して



●駐在員の声

山際 薫(やまぎわ かおる)
プロジェクト・マネージャー
東ティモールとの付き合いが長くなってきたにもかかわらず、コミュニティとの乖離を感じていた今日この頃でしたが、縁あってCAREのプロジェクトで女性農民の経済的エンパワメントに携わることになりました。チームをまとめ、一丸となって、女性たちの自信醸成と生計向上に貢献できよう努めていきたいと思っています。

6人

本件事業に関わる現地スタッフの数

22 集落

対象となる集落の数

10 グループ

対象となる全30グループの内、女性だけで構成されたグループの数

課題

活動地のエルメラ県アッサベ郡は、貧困に苦しむ農村地域で、人々の暮らしはコーヒー生産とその収入に過度に依存しています。一方で、気候変動に伴う災害の多発により、その生産高は安定していません。このような脆弱な生活基盤に加え、農作業や家畜の世話、市場での農産物の売買等において、女性が重要な役割を担っているにもかかわらず、生活に関わる意思決定の場への女性の参加が十分に確保されていません。その結果、地域の貧困が助長されています。

活動内容

本年2月から開始した本事業は、事業開始から約半年間を準備期間とし、8月以降の本格始動に向けて、1) 日本人現地統括者の雇用と現地への派遣、2) 現地スタッフ6人の雇用と研修、3) 資機材(四駆とバイク等)の購入、4) ベースライン調査のためのコンサルタント選定と調査の実施、5) プロジェクトメンバーでの事業開始ワークショップの実施、6) 地方政府、コミュニティメンバー、農民グループ等を対象とした事業開始に向けた理解促進活動を進めました。今後は、地域住民参加型による、対象地域の気候変動への対応能力の調査を行い、農民グループを対象とした農業技術研修やビジネス研修、そして女性メンバーのリーダーシップ研修等、農民グループの能力強化を目指した様々な活動を行っていきます。

ネパール「ネパール大地震被災者緊急支援事業」

—家屋全壊世帯、下位のカースト世帯、母子世帯など災害弱者に確実に届けられる支援



●担当者の声

CAREネパールのWuennenberg事務局長は、「土地を所有しない女性や女子は、このような厳しい状況下において、最も脆弱な立場におかれています。我々は、彼女たちが、復興や再建のプロセスから取り残されることのないように、細心の注意を払わなければなりません。CAREは、彼女たちに生活再建に必要な新しい技術を身に付けてもらうことで、現金収入を得て、家族を支えることができるよう支援することが、最も重要だと考えています」と災害弱者への支援の重要性を指摘しています。

93人

家屋の修復や
建築の研修を受けた職人の数

2,535世帯

生活に最低限必要な
現金支給を受けた世帯の数

20,040世帯

農業再開のための種子や
農具の配布及び農業研修

課題

2015年4月25日、マグニチュード7.8の地震がネパールを襲い、全75郡のうち35の郡が被災し、死者8,959人、負傷者22,302人、家屋の全壊半壊等による被災者数は約800万人にのぼりました。CAREネパール事務所は、発災直後から2015年6月末までの約2ヶ月間の緊急支援フェーズでは、主に緊急シェルター、食糧配布、水と衛生の分野で緊急支援活動を展開しました。2015年7月以降の前期復興支援フェーズからは、被災者の生活再建に向けたシェルターの自主再建や生業支援等を、特に家屋が全壊した世帯、下位のカーストに属する世帯、母子世帯等の社会的に周縁化された女性、HIVエイズ感染者・患者、障害者、5歳未満の子ども、乳幼児、高齢者等の災害弱者を優先して行いました。

活動内容

本年度は、被災者の生活再建に向けたシェルターの自主再建や生業支援を中心に、家屋の修復や建築のための研修や生活に最低限必要な現金支給、災害復興に向けた労働提供への対価支給（Cash-for-work）、農業再開のための種子や農具の配布や農業研修を行いました。日本からの支援は、本年度をもって終了しましたが、今後は、現地事務所を通じて、Cash-for-workシステムを取り入れた、地域住民の労働提供による水利設備やトイレ設備の設置活動を行うとともに、脆弱世帯を対象とした農業や家畜の世話、農産加工品の支援を通じた生活再建等、より長期的な視点にたった活動を展開していきます。また、参加者が男性だけに偏らず、女性の役割についても十分に認知されるように、地域の女性を対象とした対話会を実施し、女性が、シェルター、水と衛生、食糧の安全保障等のニーズについての理解を深める活動も推進します。

ヨルダン等「シリア難民支援事業」

—戦後最悪の人道危機において、最も弱い立場におかれた子どもや女性に配慮した支援を



●受益者の声

4年前にヨルダンに逃れてきたカーマン（16歳）さんは、「この地で、いちから（生活を）始めなければならない現実に、精神的にとっても不安定になりました。でも、CAREの集まりが、立ち直れるように手助けをしてくれました。当時、このノートを持って、集まりに参加しました。私の身に起こったことをノートに書き留めていったことが、大きな助けとなりました。私は、人生で一番悲しい時期を経験し、乗り越えられました。その経験から、これからどんなことにも立ち向かえると思うし、とても幸せだった時期もあったことにも気づきました。人生は、悲しみだけではなく、幸せに満ち溢れているものだと分かりました」と語ってくれました。

34,000世帯

現金支給を受けた
シリア難民の世帯数

570世帯

学費の支給を受けた
シリア難民の世帯数

900人

職業訓練を受けた
シリア難民の数

課題

冷戦終結以降、最悪の人道の危機と言われるシリア内戦から5年が経過し、出口の見えないまま、情勢は益々悪化しています。60%以上の医療機関が破壊される等社会経済的インフラは壊滅的なまでに破壊され、食糧不足は慢性化した問題となっています。また、これまで100,000人以上が内戦で命を奪われ、700万人が家を追われ難民となっています。シリアから逃れてきた難民のうち4分の3が女性と子どもであると報告されており、女性や子どもの権利やニーズに特に配慮した支援が求められています。

活動内容

CAREは2012年から2016年3月までの約4年間に、ヨルダン、レバノン、トルコ、エジプト等に逃れたシリア難民及びシリア国内の国内避難民約234万人に支援を届けました。日本からの支援は、主に、ヨルダンでの、当面の生活保障を目的とした現金支給支援、暖房器具、燃料交換券、毛布、マットレス等の越冬対策支援、就学期にある子どもを対象とした教育支援（児童労働防止）、生活に必要な情報照会サービス支援、難民の生計向上を目的とした職業訓練支援に役立てられました。日本からの支援は、本年度をもって終了しましたが、ヨルダン、レバノン、トルコ、エジプト、イエメン等の周辺国におけるCAREによるシリア難民支援活動は、2019年6月まで継続される予定です。

日本「熊本地震被災者支援事業」

—生活困窮世帯やひとり親世帯などの災害弱者に確実に届けられる支援



●施設担当者の声

シェルター in 熊本

生活用品が入ったことで、6月20日からシェルターが再開できました。6月24日現在、6歳、4歳、2歳のお子さんを抱えた29歳のお母さんが入所中です。6歳と2歳のお子さんが自閉症の障害を持っており、避難生活のストレス等が重なったせいもあるのか、父親が子どもに手をあげる事態が起き避難してきました。疲れ切ったお母さんが「久しぶりにゆっくり眠れました」と、感謝の言葉を述べていました。シェルターで少し落ち着いた生活ができることを願っています。

2,433,000円

事業規模

8団体

支援を行った団体数

3台

特別養護老人ホーム
「陽ノ丘荘」に提供した
モーター電動ベッドの数

課題

2016年4月14日の前震と4月16日の本震の2度の最大震度7の地震で被害が拡大しました。当財団は、発災から約1ヶ月が経過した段階で、熊本県に事務所を置くCARE支援組織「ケア・サポーターズクラブ熊本」との協働で現地調査を行いました。調査は、初動において支援が多く集まる避難所ではなく、高齢者、障害者、子ども、生活困窮世帯やひとり親世帯等の災害弱者を優先。特に、恒常的なサービスを提供している「民間の福祉系施設や団体」を中心に実施しました。このような被災者は、一般的な避難所での受け入れが困難である場合が多く、災害時において、配慮された支援を受けることができないまま取り残されてしまうことが少なくありません。

活動内容

「ケア・サポーターズクラブ熊本」とともに、高齢者施設、暴力被害を受けている女性のためのシェルター運営団体、病児保育団体、情緒障害児施設、成人の知的障害者施設等、計8つの施設・団体に喫緊に必要な資機材を提供しました。今後の課題としては、支援介入のタイミングが挙げられます。今回調査訪問した施設・団体の中には、まだ緊急事態への対応で多忙を極めている施設も散見され、発災から1ヶ月あまりの段階では、施設側が必要な物的支援を整理するには時期尚早でした。被災状況にもよりますが、今後、日本において同様の形で災害支援を実施する場合には、発災から1ヶ月目までは情報収集と募金活動に注力し、緊急支援フェーズが終息に入る2ヶ月目以降から、候補施設等の選定と実地調査に入ることが推奨されます。

日本「アドボカシー事業」

—変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に



●協力者の声

「動く→動かす」事務局

関澤 春佳(せきざわ はるか)

コミュニケーション コーディネーター

「世界の貧困をなくしたい」という気持ちは、日本でも多くの人々が抱えています。また、日本においても、子どもの貧困といった問題が大きな注目を集めています。貧困を生み出す構造は世界でも日本でも変わりありません。2009年、政権交代と時を同じくして発足した「動く→動かす」は、この歴史的転換点をひとつの契機とし、日本全国の皆さま、そして世界各国の市民社会と連携し、貧困問題解決に取り組んでいます。皆さま一人ひとりが「動く」ことで、一緒に世界を動かしていきましょう。

2030年

持続可能な開発目標
(Sustainable Development
Goals (SDGs)) の目標達成期限

169

持続可能な開発目標 (SDGs) の
目標達成を知るための指標数

101位

ジェンダー・ギャップ指数(2015年)
における日本の順位

課題

2015年9月、ニューヨーク国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」にて、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択。2030年までに国際社会が達成すべき目標として、ミレニアム開発目標の後継となる、「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択され、世界は、新しく設定された目標に向けて動き出しました。この共通の目標は、途上国だけではなく、先進国の課題をも含めたものとなります。今後、国際機関や政府、またNGO等だけではなく、民間企業においても、目標達成に向けて、これまで以上の積極的な参画が期待されています。

活動内容

他団体(特に、「動く→動かす」と特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター (JANIC))と協力して、持続可能な開発目標 (SDGs)、そして開発協力大綱に基づく新しいジェンダー政策に優先順位を置いて、外務省などとの各種会議やパブリックコメント等を通じて政策提言を行いました。具体的な成果としては、日本政府が「開発協力大綱」に基づいて策定した「女性の活躍促進のための開発戦略」において、ジェンダー主流化がアプローチとして明記されたことや女性の経済的エンパワメントが重点的な取り組みとして含められたこと等があげられます。

数字で見る

CARE (ケア・インターナショナル) の一年

(2016年6月30日現在)



© Josh Estey/CARE

786 万人

教師の育成やコミュニティ啓発などを通じて、子どもたちに「教育」の機会を提供しました

890 事業

実施プロジェクトの数

6,500 万人

支援を届けることができた人の数



764 万人

職業訓練やマイクロクレジットなどを通じて、「生計向上」のための支援を行いました



© Freccia Learson/CARE

3,130 万人

母子保健や栄養に関する啓発活動を通じて、母子の健康や栄養状態を改善しました



© Brian Sokol/CARE

7,000 万人

災害や紛争などにおいて、女性や女子、高齢者など支援を最も必要とする人々を中心に、「緊急支援」を行いました



© H&M/CARE

214 万人

女性の地位向上を目指し、「ジェンダーの平等」「女性のエンパワメント」についての研修を実施しました

79 ケ国

支援国の数



© Brendan Bannon/CARE

310 万人

井戸・トイレの設置や啓発活動などを通じて、「安全な水」と「衛生的な環境」を提供しました

数字で見る ケア・インターナショナル ジャパン国内活動の一年

(2016年6月30日現在)



116人

つながる国際協力
「CAREスマイルギフト
キャンペーン2015」参加者数



10人

当財団の職員数

80件

企業からの延べ寄付件数

89人

個人会員数



1,014人

イベント参加者数
(当財団およびファンレイジング・
ボランティア主催)

3,284人

facebookのファン数



支援者交流会「第3回パートナーシップフォーラム」の様子

3,603件

個人による一年間の延べ
寄付件数

283,047

ページビュー(PV)
当財団ホームページへのアクセスページ数

162人

マンスリー・ギビング・プログラム参加者数

新聞掲載およびテレビ放映等の合計報道実績件数

47件

CARE 支援組織の会員数

533人/社

1,088,730円

物品・サービス提供による支援の
寄付相当額



432人

歩く国際協力
「Walk in Her Shoes 2016」参加者数

897,089円

「あつめて国際協力」への
支援総額(法人・団体・個人)



CARE 支援組織 活動紹介

～全国から届いたレポートを紹介します～

ケア・フレンズ岡山



秋川雅史講演会・バザー(2016年3月19日)

テノール歌手の秋川雅史氏をお招きして、「音楽のある人生」と題する講演会を開催。1,100名のお客様をお迎えしました。講演会の最後には、「千の風になって」「翼をください」を聴かせていただき、大変感動しました。

ケア・フレンズ東京



さだまさし講演会・バザー(2016年2月11日)

第18回講演会に、多方面で大活躍のさだまさし様をお迎え致しました。「いのちの理由」をテーマに、その美しい歌声と、お人柄を表すお話は、会場一杯のお客様を魅了しました。感動に涙し、お腹の底から笑い、素晴らしい時を過ごさせて頂きました。さだ様に感謝致しました。

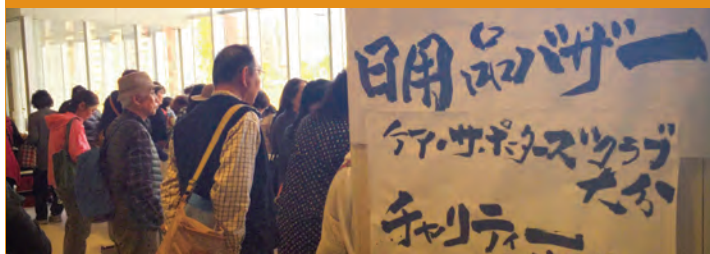
ケア・フレンズ長野



チャリティーランチ会・バザー(2015年10月14日)

会員のご息女である内田沙理さんのバイオリンと金山千春さんのピアノ演奏によるミニコンサートを開催しました。力のあるお二人の演奏は大変好評でした。バザーも多くの品物が揃い、売上金20万円をケア・インターナショナル ジャパンに寄付することができました。

ケア・サポーターズクラブ大分



チャリティーバザー(2015年11月18日)

会員の皆さまからご寄付いただいた品々にそれぞれ値段をつけ、商品として準備をいたしました。多くの御協力で、順調な販売実績を達成。お客様も途切れることなく、大盛況裡に終了いたしました。

ケア・サポーターズクラブ熊本



熊本地震による被災者支援活動(2016年4月～8月)

熊本地震では、ケア・インターナショナル ジャパンと連携して被災地支援活動を実施するとともに、当会単独でも、学校、保育園、避難場所の医院などに支援物資を届けました。また、全国のCARE支援組織からは義援金もいただき、蒲島県知事へ渡しました。

ケア・パートナーズ金沢



「JAPAN TENT」でのPR活動(2015年8月23日) 北國新聞社 提供

日本で学ぶ留学生が石川県内に集う「JAPAN TENT」で、「CARE」をPRしました。全国の支援組織の皆さんにご臨席賜り、ホスト家族に活動への参画を呼び掛けました。ネパール地震の義援金も募りました。

ケア・サポーターズクラブ千葉



千葉県流山地区会員の集い(2016年6月16日)

千葉県は南北に広がっているため、5地区(千葉地区、市原地区、房州地区、流山地区、市川地区)に分かれての地区活動に力を入れています。今年は、五十嵐・流山地区会長が、30名の会員を集めて、勉強会を行いました。

CARE 支援の輪

—様々な形で活動を支援下さっている人々を紹介します

ファンドレイジング・ボランティア



2012年に開始した「ファンドレイジングチャレンジ!」。10か月の間、ファンドレイジング(資金調達)のためのイベントの企画、準備、実施までをボランティアが主体となって行います。本年度は、8期目のチームが活動。講演会、ヨガ、料理教室、映画上映会など計6回のイベントを通じて、延べ95名の参加を得て、10万円を超える寄付金を集めて下さいました。

<8期メンバーの声>

会社では経験できないプロジェクトを通じて、異業種交流会よりはるかに異業種な人たち、異業種な世界を経験しました。

あつめて国際協力



使用済み切手や読まなくなった本などを集めて、換金し、国際協力活動につながる取り組みを行っています。本年度は、三重県松阪市立殿町中学校のイベント・ボランティア委員会が、あつめて国際協力活動の一環として、「学校に行こうプロジェクト」を校内で展開。その功績が認められ、「ボランティアスピリットアワード コミュニティ賞」と「中学生からの提案・発信」コンテスト 最優秀賞を受賞しました。

<ボランティア委員会メンバーの声>

もっと幅広い世界に支援を拡げていきたいです。来年は、東ティモールの子どもたちに50冊の学習雑誌「ラファエック」を届けたいです。

3月8日「国際女性の日」 歩く国際協力「Walk in Her Shoes」



途上国の女性や女子が毎日水汲みなどのために歩く8,000歩を体験する「チャリティウォーク」。5年目を迎えた本年度は、社団法人ガールスカウト日本連盟に所属する高校生が「ジュニア・アンバサダー」として、様々な形で活動に参加し、地域での広報を行いました。また独自に2回のイベントを企画、うち1回はファンドレイジング(資金調達)にも挑戦しました。

<支援者の声>

暑くなると当然水を飲みたくなる。でも水を運んでいる人は、少しでも多く持ち帰りたいでしょうからそうそう使えないだろうな。水への意識も変わりますね。

9月8日「国際識字の日」 つながる国際協力「CARE スマイルギフトキャンペーン」



東ティモール独立10周年を記念して開始したキャンペーン。ご寄付による参加の他にも、ワークショップやイベントへの参加、また東ティモール民芸品やコーヒーの購入等を通じ、日本の支援者の皆様に同国との「つながり」を感じていただき、4年目となる本年度は、学習雑誌「ラファエック」40,000冊を日本からの支援により届けることができました。

<支援者の声>

東ティモールというのも初めて聞いたし、日本では当たり前のように字を学校で習って、読めないなんてことがないのでビックリしました。東ティモールの子どもたちが、少しでもハッピーになれるように。

2016年度 会計報告

正味財産増減計算書

(2015年7月1日～2016年6月30日)

[単位：円]

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常収益			
基本財産・特定資産運用益	1,250,000	837,500	412,500
受取会費	17,438,803	16,033,456	1,405,347
事業収益	32,104,168	31,217,940	886,228
受取寄付金	37,217,235	39,327,972	△ 2,110,737
雑収益	3,536,142	3,730,558	△ 194,416
経常収益計	91,546,348	91,147,426	398,922
2. 経常費用			
国際協力事業費	59,266,535	58,876,388	390,147
マーケティング事業費	27,316,054	25,657,334	1,658,720
管理費	14,767,300	12,529,561	2,237,739
経常費用計	101,349,889	97,063,283	4,286,606
評価損益			
基本財産・特定資産評価損益等	909,225	4,178,750	△ 3,269,525
投資有価証券評価損益等	201,691	41,714	159,977
評価損益等計	1,110,916	4,220,464	△ 3,109,548
当期経常増減額	△ 8,692,625	△ 1,695,393	△ 6,997,232
3. 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
4. 経常外費用			
固定資産除去損	2	0	2
経常外費用計	2	0	2
当期経常外増減額	△ 2	0	△ 2
当期一般正味財産増減額	△ 8,692,627	△ 1,695,393	△ 6,997,234
一般正味財産期首残高	51,329,299	53,024,692	△ 1,695,393
一般正味財産期末残高	42,636,672	51,329,299	△ 8,692,627
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	15,687,712	20,250,494	△ 4,562,782
一般正味財産への振替額	△ 22,367,954	△ 16,859,612	△ 5,508,342
当期指定正味財産増減額	△ 6,680,242	3,390,882	△ 10,071,124
指定正味財産期首残高	7,960,591	4,569,709	3,390,882
指定正味財産期末残高	1,280,349	7,960,591	△ 6,680,242
III 正味財産期末残高	43,917,021	59,289,890	△ 15,372,869

貸借対照表

(2016年6月30日現在)

[単位：円]

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	27,637,234	38,180,722	△ 10,543,488
前払事業費用	29,003,346	10,700,137	18,303,209
未収金	10,957,497	568,111	10,389,386
貯蔵品	310,293	316,012	△ 5,719
前払費用・立替金・仮払金	819,828	734,632	85,196
流動資産合計	68,728,198	50,499,614	18,228,584
2. 固定資産			
基本財産	29,218,750	28,309,525	909,225
その他固定資産合計	8,883,425	9,347,542	△ 464,117
固定資産合計	38,102,175	37,657,067	445,108
資産合計	106,830,373	88,156,681	18,673,692
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受事業収益	50,291,446	11,963,139	38,328,307
未払金	10,886,185	14,625,652	△ 3,739,467
前受会費	1,584,000	2,244,000	△ 660,000
預り金	151,721	34,000	117,721
流動負債合計	62,913,352	28,866,791	34,046,561
負債合計	62,913,352	28,866,791	34,046,561
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	1,280,349	7,960,591	△ 6,680,242
2. 一般正味財産	42,636,672	51,329,299	△ 8,692,627
正味財産合計	43,917,021	59,289,890	△ 15,372,869
負債及び正味財産合計	106,830,373	88,156,681	18,673,692

国際協力事業費内訳

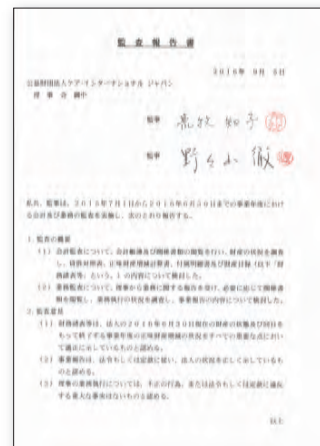
2016年度(2015年7月1日～2016年6月30日)

[単位:円]

事業名	主な支援者 ^(注1)	総事業期間	総事業予算	当年度支出額	累計支出額
ソーシャルビジネス事業 (ガーナ)	味の素	2012年8月～2016年12月 (4年5ヶ月間)	75,000,000	10,605,995	81,374,717
乳幼児の栄養改善事業 (ガーナ)	外務省、味の素	2016年2月～2019年2月 (3年間)	140,000,000	13,653,204	13,653,204
ラファエック事業 (東ティモール)	支援組織	2014年6月～2019年6月 (5年間)	415,289,124 ^(注2)	4,107,823	14,033,982
農村地域の生計向上事業 (東ティモール)	外務省、支援組織	2016年2月～2019年2月 (3年間)	90,000,000	12,455,070	12,455,070
ネパール大地震被災者支援事業 (ネパール)	セガサミーホールディングス、 ヤフー(Yahoo!基金)、 支援組織、一般	2015年4月～2019年4月 (4年間)	4,080,000,000 ^(注2)	9,769,321	10,085,313
シリア難民支援事業 (ヨルダン等)	支援組織	2012年6月～2019年6月 (7年間)	20,400,000,000 ^(注2)	1,989,627	1,989,627
熊本地震被災者支援事業 (日本)	インターネットイニシアティブ	2016年5月～2016年8月 (4ヶ月)	2,500,000	2,432,593	2,432,593
新規事業・その他	カランマス・セジャトラ社	—	—	4,252,902	—
合計				59,266,535	

(注1) 100万円以上の寄付者等を指す。(注2) 他のCARE加盟国からの資金支援を含めた総事業予算

監査報告書



謝辞

ケア・フレンズ東京、カランマス・セジャトラ社、ケア・フレンズ岡山、株式会社インターネットイニシアティブ、ケア・サポーターズクラブ大分、ケア・フレンズ長野、株式会社藤屋他、たくさんの個人・法人の皆様からのご支援に対しまして、心より感謝申し上げます。

役員・評議員・顧問

名誉会長	柳井俊二	国際海洋法裁判所 判事
顧問	稲川素子 山東昭子 日枝 久	株式会社稲川素子事務所 代表 参議院議員、元科学技術庁長官、元参議院副議長 株式会社フジテレビジョン 代表取締役会長
代表理事（理事長）	目賀田周一郎	前メキシコ駐箆特命全権大使、中央大学法学部 教授
代表理事（副理事長）	黒川千万喜	元公益財団法人トヨタ財団 常務理事
常務理事（業務執行理事）	武田勝彦	公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン 事務局長
理事	小島 明 藤掛洋子	公益社団法人 日本経済研究センター 参与 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授
監事	荒牧知子 野々山徹	公認会計士・税理士 荒牧公認会計士事務所 元株式会社富士銀行 常務取締役
評議員	安倍洋子 加藤睦子 河野洋子 小泉淑子 給田英哉 高橋 衛 田中 皓 山本卓弘 渡邊美佐	ケア・フレンズ東京 会長 ケア・フレンズ岡山 名誉会長 カランマス・セジャトラ社 取締役 弁護士 シティユーワ法律事務所 アークヒルズクラブ 専務理事 ドイツ証券株式会社 コンサルタント、株式会社パレスホテル 顧問 公益財団法人 助成財団センター 専務理事 社会福祉法人 野菊寮（御殿場コロニー） 理事 株式会社 渡辺プロダクション 名誉会長

法人会員

有限会社秋山商事 アサヒグループホールディングス株式会社 株式会社イースクエア カランマス・セジャトラ社 株式会社サラスバ 神社本廳 セガサミーホールディングス株式会社	全日本空輸株式会社 大成建設株式会社 東レ株式会社 日産自動車株式会社 株式会社日立製作所 株式会社ビデオエイベックス 株式会社フジテレビジョン	三井物産株式会社 三菱商事株式会社 三菱重工業株式会社 ミマスクリーンケア株式会社 株式会社ヤマノビューティメイトグループ 株式会社ロツテ 株式会社渡辺プロダクション
--	--	---

支援組織

ケア・フレンズ岡山 ケア・フレンズ東京 ケア・フレンズ長野	ケア・サポーターズクラブ大分 ケア・サポーターズクラブ熊本 ケア・サポーターズクラブ千葉 ケア・パートナーズ金沢
-------------------------------------	---

Vision

ビジョン：

CAREは、貧困のない、すべての人々が尊厳をもって安心して暮らせる、希望に満ちた、寛容で公正な世界を目指します。

Mission

ミッション：

CAREは、人々の命を守り、貧困をなくし、公正な社会を創ることを使命とし、世界中でその実現に向けて取り組みます。

Focus

フォーカス：

CAREは、女性と女子を活動の中心にすえます。
貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が平等な権利や機会を得る必要があるからです。

Our Work

ケア・インターナショナル ジャパンの活動：

ケア・インターナショナル ジャパンは、世界90ヶ国以上で人道支援活動を行う国際NGOケア・インターナショナルの一員です。災害時の緊急・復興支援や「女性と女子」の自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。特に「女子教育」「女性の経済的エンパワメント」「母子保健」の分野に注力し、最も困難な状況にある人々の自立を支援しています。

長期ビジョン2020：

私たちの目指す社会

1. 「女性と女子」の自立支援を通じて貧困のない社会を目指します。特に、女子教育、生計向上、母子保健の3領域に注力します。

私たちらしい支援

2. 最も弱い立場におかれた人々や支援の届きにくい地域の人々に、現地協力者との連携を大事にしながら、確実に支援を届けていきます。
3. 緊急支援の能力を高め、国内外の自然災害に対し、より迅速かつ効果的に対応します。特に、東日本大震災での学びを今後活かしていきます。
4. 支援対象国の人々と日本の支援者をつなぐ役割を果たすことで、共に社会課題の解決に取り組む世界の実現に貢献します。

私たちの目指す組織と人財

5. 組織や事業の透明性を高め、あらゆる説明責任を果たすことで、幅広く共感を得て支持される団体になります。
6. 多様な人財と新しい価値観を尊重し、職員の成長と連帯を高めることで、長期ビジョン2020達成への一人ひとりの貢献度を高めます。



ロゴについて：

互いにまっすぐ伸びていく手が形作る輪。

グローバルな視点で地球規模の問題に力を合わせて立ち向かう、CAREの活動の本質をイメージするものです。それは、一体であるだけでなく、多様性を認めるものでもあります。様々な環境に生きる世界中の人々が、共通の目標のもとに一つになったときに生み出される大きなチカラ。CAREのロゴにはこのような意味が込められています。

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階 TEL : 03-5950-1335 FAX : 03-5950-1375

Emai : info@careintjp.org http://www.careintjp.org

*本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを堅く禁じます。

本報告書は、大日本印刷株式会社のご協力により、低価格でのカラー印刷が実現しました。

(2016年10月発行)